

第1回岡山盲学校及び岡山聾学校の校舎等整備に係る基本構想検討委員会 議事概要

開催日時:令和5年11月28日(火) 14:00~16:00

開催場所:ピュアリティまきび エメラルド

出席者:委員 11名

欠席者:無し

傍聴者:6名

<概要>

1 委員長・副委員長の選出（互選により選出）

吉利委員長(岡山大学学術研究院教育学域 教授)

宮崎副委員長(県立岡山盲学校 学校運営協議会 会長)

2 岡山盲学校及び岡山聾学校の現状と課題

(事務局) 資料により説明

(委員) 岡山盲学校では、単一障害の子どもだけでなく、近年、重複障害の子どもがたくさん在籍している。単一障害と重複障害の子どもが同じ校舎で同じ時間割で学習している状況で、単一障害に寄った時間割となっていることから、重複障害の子どもには、体力的にもしんどいのかなという場面が見られる。

(委員) 岡山聾学校でも、岡山盲学校と似た状況があるが、子どもの数が非常に少なくなってきたおり、集団での学習活動が難しくなっている状況がある。

(委員) 岡山盲学校は、地域に点在する視覚障害のある幼児児童生徒への支援、いわゆるセンター的機能に熱心に取り組んでおり、県外にもインパクトを与えているグッドプラクティスであると伺っている。今後も、このセンター的機能の取組は積極的に進めてほしい。盲学校も含めた特別支援学校の重要な役割だと思う。

(委員) 岡山聾学校の校舎は、天井が金網等で困っており、老朽化が大変進んでいる状況だと感じている。安心・安全な新校舎等の整備は必要だというのは間違いない。岡山聾学校での教育は、ことばを育てる教育で、早期からの教育が重要であり、県下の他の特別支援学校にはない、幼稚部が設置されている。乳幼児教室や通級指導教室での支援など、多方面でセンター的機能の役割も果たしている状況である。

(委員) 岡山盲学校は、校舎だけでなく、寄宿舎も老朽化が進んでいる。また、重複障害の子どもが増えており、その子どもに対応できる施設・設備が古いという話も聞いている。通学区域は県下全域となっており、保護者の送迎の負担がある。交通の利便性が向上され、改善されることを期待している。

- (委員) 校舎が新築されるのは、ありがたい。同時に教育内容の見直しも検討していくという中で、センター的機能の充実というのは、聞こえない子どもや見えない子どもを持つ保護者の立場としても、安心して子育てができ、不安を相談できる場があるというのは大切なことである。その内容も併せて今回検討できるような記載になっており、感謝したい。また、教育内容の見直しについては、時代の流れに即した内容にしていくことは、子どもたちにとって必要なことだと思う。
- (委員) 目と耳の障害は、全く違うもので、お互い一番コミュニケーションが取りにくい。支援の方法も真逆のことをしなければならない。視覚と聴覚それぞれに適したきめ細やかな教育を受けられるような学校になってほしい。盲学校と聾学校は、同じ敷地で学んでいたのが、昭和26年度に分かれた。これは、情報がうまく伝達できず、大きな事故に繋がったということがきっかけだ。現在は、設備もよくなっており、そのようなことは起こらないとは思いますが、このことは忘れてはいけないと思う。
- (委員) 過去の寄宿舎の火災については、非常に大きな出来事である。昭和47、48年頃に東岡山駅で岡山聾学校中学部の生徒が貨物列車に接触して亡くなったという事故もあった。聴覚障害者が減ったということで、教育内容を変えるという部分もあるかもしれないが、聴覚障害教育の大切なところを忘れないようにしなければならない。重複障害にも対応した教育も考えればよいが、全部変えてしまうというのは不安を感じる。昔から岡山聾学校には各クラスに重複障害の子どもがいたが、お互い良い人間関係であった。就職率も100%という状況が続いていた。ただ、重複障害だからという理由で、丁寧すぎる教育をしてしまうのは学校側の責任もあると思う。校舎が古くなり、人間関係を学ぶ場面も減っているという状況に危機感を持っている。
- もう一つ、岡山聾学校のグラウンドに新校舎を建てるということだが、近くに大きな4車線の道路が整備される計画があり、そのことも把握した上で、子どもたちの安心・安全に配慮ができるようにしてほしい。

3 教育環境の再構築の方向性

- (1) 教育内容の見直し
- (2) 校舎等整備
 - ① 新校舎の整備場所

(事務局) 資料により説明

- (委員) 岡山聾学校の土地は、元々、川があったと聞いている。地盤が弱い状況で、地震が起きた場合には、液状化の心配がある。きちんと地盤改良をした上で、校舎等を整備してほしい。

- (委員) 岡山盲学校の教育内容について、知的障害を併せ有する児童生徒が増えているが、児童生徒の実態が幅広い状況である。進路選択においても、国立大学への進学を目指す生徒から生活介護などの福祉サービスを受ける必要がある生徒まで在籍している状況である。教員も専門的な教科指導をしながら日常生活指導にも関わっていくような複雑な教育課程を編成している。また、理療科は成人が入学してくるが、途中失明等で ADL(日常生活動作)の部分で非常にハードルが高い。まずは ADL を学んだ上で、職業教育が受けられるようなコースを検討したいと考えている。
- (委員) 岡山聾学校の教育内容について、平成28年度に高等部の学科改編を行ったが、ヘア系は、改編後の8年間で在籍者が0という厳しい状況が続いており、卒業生とも話をしたが、職業選択の幅も広がっており、廃止も致し方ないと思っている。総合デザイン学科の木工コースについても、時代に合ったものかどうか検討していく必要があると考えている。今、岡山聾学校で学んでいる子どもたちや将来入学してくる子どもたちの実態に合った教育内容を検討していかなければならない。
- (委員) 岡山聾学校の総合デザイン科の木工コースについては、教育内容としてはとても良いと思っている。ものを作るというのは、ゴールまでがはっきりとしており、曖昧なままであると間違えた結果が出てくるため、生徒にも分かりやすい。将来の仕事にも活用できると思う。教育内容を変えるか変えないかは最終的には学校に任せる。
- (委員) 中途失明になった方は自宅から学校へ通うことが大変である。自立と社会参加のために中途視覚障害者が寄宿舍を利用しやすいよう検討してほしい。

② 学校の整備形態

(事務局) 資料により説明

- (委員) 一体型になった場合、予算要求の中で、視覚障害教育と聴覚障害教育のどちらを優先して要求するのかということが起きないのか心配である。併設型であれば、盲学校と聾学校が独立しており、予算要求が有利なのではないかと思う。
- (委員) 聴覚障害者の仲間は、独立、併設型を望んでいる。新聞報道で、何か合併というイメージがあり、反対という意見をたくさん聞いている。補助金のことを言われるとはっきり答えられないが、悩む。専門性を担保するというのは絶対である。特別支援学校という名称になり、専門性が低下したと感じており、そうならないようにしてほしい。どのような教育を行う学校であるか、社会が理解できる学校にしなければならない。
- (事務局) 一体型になろうと併設型になろうと専門性の担保というのは大前提であると考えており、今回の教育内容の見直しや施設整備の議論に関わらず、障害に対応した教育の専門性の担保というのは、今後も継続して考えていかなければならない課題だと認識

している。予算面についても、特別支援教育の担当課として、視覚障害・聴覚障害それぞれの教育の専門性の担保のために、必要な予算を要求していきたいと考えている。

- (委員)岡山盲学校の保護者の中には、移転に否定的な方や仕方がないと言う方もいるが、個人的には、現岡山盲学校の場所に新しい校舎等を整備するのは難しいのではないかと考えている。ただ、一体型になると、現状でも岡山盲学校は、岡山聾学校よりも児童生徒数が少ないため、盲学校部門の教員数が減り、聾学校部門の教員数が増えるのではないかという不安がある。また、現在、原尾島の地域の方から多くの支援をいただいている状況があるが、移転により通学の利便性は高まるが、JR 東岡山駅周辺は点字ブロックも未整備などところが多く見受けられ、通学路の整備など物理的な整備も併せて必要であると考えている。
- (事務局)教職員数については、整備形態がどうなっても大きな差は出てこないと考えているが、管理職や事務職員数については、一体型になった場合は、1校分の人員配置になってくる。また、通学路の整備等については、今後、岡山市等とも協議しながら、整備していく必要があると考えている。
- (委員)一体型、併設型については、全国の状況を見ても、盲学校と聾学校が一緒になっていくという流れはある。どちらの形態になろうとも、子どもたちの教育をどうするかという点では、互いの障害種の子どもが交流することは良い効果があると言われている。一体型と併設型のどちらかということになると、それぞれ委員の立場で意見が変わってくるところはあるかもしれないが、ヒト・モノ・カネという部分で十分に専門性を担保できる学校であれば良いのではないかと考えている。
- (委員)子どもにとってのメリットを考えると、障害のある者と健常者の交流だけでなく、障害のある者同士の交流も大事であると思う。昨日、テレビ番組で盲学校の全国弁論大会が放送されており、優勝した少年の弁論の中で、パラリンピックの閉会式で視覚障害以外の障害のある人と一緒にバンド演奏し、触れ合うことで、健常者との壁だけでなく、障害者同士の壁も破らなければならないと感じたという発表をしていた。障害のある子どもたち同士が交流する場を整備することが我々大人の仕事であると感じた。候補地の敷地は、一体型であろうと併設型であろうと狭い敷地の中で校舎を建てることになるので、必然的に交流は生まれ、良い影響があると思っている。現在、岡山聾学校の近くに岡山東支援学校があり、一部、岡山聾学校の教室を岡山東支援学校の生徒が使用しているが、学校が違うとなかなか交流ができていないというのが現状である。そういう面でも一体型がいいのではないかなと思う。
- (委員)障害者同士の交流は、本音を言うとなかなか難しいと思う。安易に交流を目的に学校を作る必要はないと思っている。心から交流ができるのであればよいが、授業を目的に交流にする必要はないと思っている。

- (委員)他の障害が分からない部分もあるが、お互いコミュニケーションがしづらい者同士が、交流をするというのが、ちょっと引かかる。積極的に交流することが難しい障害同士であるという感じはある。視覚障害者にとっては、聴覚障害者とコミュニケーションを取るのが一番難しい。また、学校の先生方の負担も大きくなるのではないかとも思う。
- (委員)一体型のメリットの中に「それぞれの障害の指導者の育成にプラスの効果が期待できる」という記載があるが、いまだに岡山盲学校に勤務していても専門性が足りないと感じる部分があり、さらに岡山聾学校の専門性を岡山盲学校の教員にも求められるのかと思うと正直、しんどくなる部分はある。
- (事務局)一体型で視覚障害部門と聴覚障害部門では、教員の所属は違うので、両方の部門を担当するという事にはならない。
- (委員)ただ、聾学校の子どもたちともやり取りをしたいと思う教員、手話ができるようになりたいと思う教員もいると思う。先生方は、頑張らないといけないと思う教員がとても多いので、そういう意味でも両方の専門性が求められるのではないかと思う。
- (委員)生徒が減ってきている現状と正規教員が減ってきている現状がある。センター的機能を充実するとすると教員数を増やしてほしい。
- (委員)そのあたりの専門性の担保は、県教委が研修等を充実してもらって指導者育成に努めてもらえると思うが、山口県では総合支援学校ということで、5障害種を集約して受け入れている地域もあり、今回の2障害を集約することが専門性を揺るがすような状況にはならないとは思う。
- (委員)子どもや保護者が安心して通える学校環境をどう作るかということを通用のゴールにして考えていければいいのではないか。一体型になっても創意工夫で自由度があると感じている。教育内容の中身をどうしていくのが重要で、それを大前提とした上で、お金の問題は避けては通れないとは思う。
- (委員)併設型であれば、補助金が出ないという説明であったが、大分県や徳島県が併設型になっているのはなぜか。また、あまりにも違う障害種が一緒になるというのは不安がある。岡山県では盲学校と聾学校が各1校であるが、中国地方の他県の聾学校では、分校を含めると2校以上設置されている。1校にしてしまうと専門性の維持・向上が難しくなるのではないかと感じる。また、岡山盲学校でも同様だと思うが、岡山聾学校では全国聾学校体育大会や通級指導教室、各種大会や研究協議会や同窓会などがある。一体型になると岡山盲学校と岡山聾学校の両方の行事や関係団体等と連携していくことになり、校長が非常に大変になることが考えられる。そのような組織体制の面でも、問題が出てくるのではないか。
- (委員)教育内容の専門性の担保が大前提だということであれば、保護者の立場からすれば、一体型であろうと併設型であろうとどちらになっても大丈夫だと思う。新潟県のよつば学園の動画を見たが、開校式で手話通訳者がいるような環境であっ

た。確実に全ての子どもたちに情報を伝えられる環境を整備してもらいたい。その情報提供を誰が担うのかという不安はあるが、そのような環境は保障してほしい。

(事務局)大分県は聾学校が盲学校の敷地に移転している。聾学校の跡地に新しい特別支援学校を建てる事情があり、聾学校だけ新設した状況である。新潟県は新たに学校を作った状況があり、各県それぞれ事情が異なっている。また、具体的な設計はこれからだが、それぞれの障害種で棟を分けて生活空間を確保できるような校舎のイメージをもっているところである。

(委員)情操教育という面で、現在の岡山聾学校の幼稚部や小学部の建物はコンクリート造であり、失敗だ。ぜひ、新しい校舎では、特に幼稚部と小学部は木造で検討してほしい。本日の協議内容や資料を県聴覚障害者福祉協会の会議でも共有させてもらう。

(委員)新しい学校の校長の立場で考えると学校運営をしていく上では、指揮命令系統のはっきりした一体型の方が運営しやすいと思う。

(委員)次回以降の学校の整備形態の議論については、それぞれの教育の専門性が担保されることを前提に、一体型で検討を進めることとしたい。